

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	60.3		47.7	
	(0.96)		(0.92)	
			61	
		(0.94)	(0.93)	
R3 正答率の全国比		0.94		0.91

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○国語・算数ともに県または全国平均を下回っている。

【国語について】

- ・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題では、県平均を5ポイント以上上回っている。総合的な学習の時間等に、学んだことを伝える学習を行ってきたことと、問題の状況が似ていて、内容をイメージしやすかったことも結果につながっていると考え。
- ・主語、述語の関係や、修飾、被修飾の関係をつかむ問題でも、県平均を5ポイント程度上回る結果となっている。言葉についての基本的事項を授業の中で丁寧に確認してきた結果である。
- ・「読む」ことに関しての正答率が低く、県・全国平均との開きも大きい。文章や与えられた資料の概要をつかみながら、解答に必要な情報を選び出す力が不十分である。また、選び出す際に、問われている事柄を十分に理解した上で文章や資料を見返すという作業が苦手である。

【算数について】

- ・「数と計算」の領域については県平均を上回っている問題もあり、基礎的な事項は身に付いている。
- ・直角三角形の面積を求める問題に落ち込みが見られた。公式を忘れていたとも考えられるが、情報過多の場合に必要な情報を選び出す力が不十分である。
- ・国語同様、与えられた問題の中から、問われた内容と合致するような情報を選び出すことができていない。

○基礎的な部分については正答率が高いものもある。ただし、身に付けた理解が曖昧になっている部分もあるので、定期的に復習をしていくことが必要だと考える。また、自分の考えを“書く（表現する）”ための“読み（情報収集）”ができていない。この傾向はすべての教科において言えることである。世の中にあふれている情報の内容を確認・精査し、自分の考えを構築・発信していく力は、これからの子どもたちにとっては必要不可欠なものである。そのことを意識し、指導にあたっていく。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 自己の考えを形成するための授業実践
 - ・今年度の校内研究のテーマである『自分の考えを形成し,主体的に伝え合う』部分に焦点を当てて取り組んでいく。具体的には、「①思考ツールを用いた思考力・表現力の育成」、「②ICT 機器の効果的な活用方法についての研究」の2点を中心に据える。
- 2 基礎基本の定着と活用力を育成する授業の実践
 - ・「授業づくりのステップアップ1・2・3 vol.1&2」を基本とした授業づくりに努める。その時間の「めあて」を達成するまでの道筋がはっきりし、学んだことを「まとめる」という一連の流れをしっかりと作る。
 - ・必要な条件や具体的な書き方などを示した上で、「書く活動」に取り組ませる。その際に、思考ツールの活用も意識的に行う。
- 3 主体的な学びを促す環境の整備
 - ・デジタル教科書やプレゼンテーションソフト・動画などを使い、問題の具体的な場面を想起させたり、実際には確認しにくいもの(理科など)を電子黒板を使って確認させたりすることで、学習への興味・関心を高めるとともに、確かな理解へと導く。
 - ・掲示物の場所に配慮し、学習に集中できるような学習環境を整える。また、既習事項や児童が身に付けなければならない学習用語などを教室に掲示することで、大切な語句を確認するとともに、それを参考にしながら発言する意識をもたせる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・朝の時間「花まるタイム」で、思考力を高めるための問題や思考ツールを効果的に用いる技能を身に付けさせる活動を取り入れていく。活動内容の一部を職員が考えることにし、目的意識をよりはっきりさせることで効果的な取り組みにしていく。
- ・家庭学習の習慣化、また、主体的に学ぶ力を身に付けさせるために、自主学習に取り組ませる。スマレクなど、予習的内容を取り入れることで、授業内容をさらに深く理解できるようにする。
- ・読書習慣を身に付けさせるため、クラスでの声掛けだけでなく、児童会の活動の一部として子どもたちの主体的な活動へと広げていく。